

## 海に見える公園での着座者の利用行為に関する研究 横浜市臨港パークを対象として

A Study on behavior of seated people in the park at a waterfront area.  
 - A case study of the Rinkoh Park in Yokohama -

中島 直子\*、由比藤 直美\*、室田 昌子\*\*

Naoko Nakajima, Naomi Yuito, Masako Murota

This study aims to clarify the characteristic of bench users in the waterfront park. For this study, we investigated the actual conditions and evaluation of bench users in this park. And we showed the feature of stay time and behavior depending on the location of benches (through observational investigation). As a result, we understood that people choose this park because they can see the sea. People eat and drink in the place where they can command a prospect of the sea. In addition, they do simple activities, such as smoking or using a cellular phone, behavior in the place where accessibility is high.

Keywords : sitting, benches, park, waterfront, prospect of the sea

着座行為 ベンチ 公園 ウォーターフロント 海の眺望

### 1. 研究の背景と目的

現代は、多くの場面で精神的・肉体的ストレスを感じるストレス社会と言われており、ストレス解消の空間が求められている。水は「癒し」「安らぎ」機能を有するものとして着目されており、このようなストレス解消空間として期待されている。都市における憩いやくつろぎのある空間として、ウォーターフロントや川沿いの空間が整備され、これらは海の眺望性や川の親水性などが重視されている。本研究では、このような憩い空間の一つとして海に見える公園を対象に、その利用者の特性や利用行為を明らかにする。くつろぎ行為に着目するために、特に着座者を対象にして、着座者のベンチ利用傾向とベンチの特性別にみた着座者の利用行為について明らかにすることを目的とする。

すでに、都市とウォーターフロントの近接性についての研究<sup>1)</sup>や、ウォーターフロントにおける都市区画整理事業についての研究<sup>2)</sup>、また、ベンチの着座向きについての研究<sup>3)</sup>、利用特性から見たすわりスペースと行為の関係について研究<sup>4)</sup>が行われている。本研究では、海に見える公園においてのベンチの設置場所と行為の関係を明らかにすることにより、憩える空間創出のための知見を得ることを目的とする。

### 2. 調査地の概要と調査方法

#### 2-1. 横浜港が臨める公園

横浜港を臨める7つの公園のうち、ウォーターフロントに面して様々な利用が見られる臨港パークを調査対象地とする。

表1. 横浜港が臨める公園

公園名	山下	新港P	メモリアルP	臨港P
面積(約)(㎡)	75,000	2,000	5,500	93,000
最寄駅	元町中華街	みなとみらい	みなとみらい	みなとみらい
駅からの距離(m)	300	600	700	550
エリア名	山下	みなとみらい	みなとみらい	みなとみらい
立地特性	海に面する	海に面する	海に面する	海に面する
公園名	赤レンガP	大棧橋屋上	港の見える丘	
面積(約)(㎡)	5,500	44,000(全体)	58,000	出展:5~7)を
最寄駅	日本大通り	日本大通り	元町中華街	参考)作成
駅からの距離(m)	800	700	450	
エリア名	みなとみらい	山下	山手	
立地特性	海に面する	海に面する	海が見える	

\* 非会員 武蔵工業大学環境情報学部環境情報学科 (Musashi Institute of Technology)

\*\* 正会員 武蔵工業大学環境情報学部環境情報学科 (Musashi Institute of Technology)

#### 2-2. 臨港パークの特徴

本研究の調査地である臨港パークは、みなとみらい駅から約550mの位置にあり、東側一面に横浜港が広がっている。園内は入口エリア、芝生エリア、水路エリア、水路横ベンチエリア、駐車場などのエリアに区分でき、会議・展示場に併設されており、周辺には商業施設や高層マンションが立ち並ぶ。また売店やトイレ、駐車場が完備されており、休日には時イベントが開催されている。当公園は横浜市港湾局が所有する港湾緑地で、現在はパシフィコ横浜が運営している。



図1. 臨港パーク全体図

#### 2-3. 調査対象地の特徴

園内にいくつかのエリアを持つ当公園のなかでも、海の見易さと着座のしやすさを考え、ベンチのある入口エリアと水路横エリアの2エリアを調査エリアとし、入口からのアクセス性を考慮したうえでさらにA~Fの6エリアに分類した。ベンチの形、海の見え方のベンチ数に関しては以下の表に載せる。

表2. ベンチ種類

しやすさ アクセスの ベンチ数	ベンチの形	ベンチの形			植え込みの縁	海の見え方				
		正方形	背もたれなし	長方形		背もたれなし	長方形	背もたれあり	海が見える	海が正面に見える
入口 エリア	A	8	6	2	0	0	8	0	0	0
	B	7	5	2	0	0	7	0	0	0
水路横 エリア	C	10	7	3	0	0	10	0	0	0
	D	23	0	0	23	0	0	4	19	0
	E	13	0	0	13	0	0	3	10	0
	F	5	0	0	0	5	5	0	0	0

### 2-3-1. 入口エリア

着座可能なエリアとしてA,Bの2つに区分した。Aエリアは入口すぐの場所にあり、BエリアはAエリアから約40mで主要通路に面している。ベンチは背もたれなしの長方形型と正方形型の2種類のベンチが設置されており、Aエリア8席、Bエリア7席の計15席設置されている。

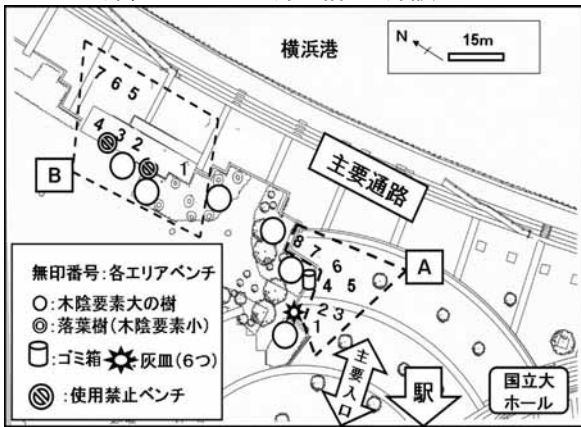


図2. 入口エリア

### 2-3-2. 水路横ベンチエリア

着座可能なエリアとしてC~Fの4エリアに区分した。Cエリアは入口から約160mの位置にあり、水路横ベンチエリアの入口付近である。Dエリアは入口から約200m、Eエリア入口から約210mの位置にあり、水路に沿って弧を描いている。Fエリアは植え込みの縁の部分であり入口から約200mの位置にある。Cエリアは入口エリアと同様の2種類のベンチが10席、D,Eエリアは背もたれのあるベンチがDエリア23席、Eエリア13席設置されている。Fエリアは5箇所設置されている。



図3. 水路横ベンチエリア

### 2-4. 調査方法

対象エリアの着座者を対象に、利用ベンチ、年代と性別、行為などの利用状況を目視での観察調査とアンケート・インタビュー調査を同時進行で行い、調査用紙に記録した。各調査エリアを平日休日2日ずつ行い、観察調査を午前9時から午後17時、アンケート・インタビュー調査を午前10時から午後15時まで実施した。利用者属性の年代設定については調査者の判断によるものとする。

9月23日は隣施設でのイベント行事、9月25日の夕方、10月7日の朝はテレビ撮影が行われていたため、エリア内ベンチの利用に多少の影響が生じている。

表3. 調査日程

日程	水路横		入り口	
	休日	平日	休日	平日
	9月23日	9月25日	9月28日	10月7日
最高気温(°C)	27	28	19	26
最低気温(°C)	18	20	16	17
天気	晴	晴	曇	晴
観察者数	262	117	122	107
アンケート数	30	23	15	14

### 3. 着座者の公園利用傾向

当公園に関する印象や利用状況について計7項目のインタビューとアンケートを行った。

居住地は西区周辺が多く、周辺住民の利用が多いことがわかる。市外からは遊びやイベント参加目的で来園する人のほか、隣接する会議・展示場利用者の来園も確認することができた。利用頻度は月1~3回が多いが、結果から5ヶ月以内には再度来園する傾向が見られ、比較的定期的に利用されている。選定理由は「海が見える」が最も多い結果であったが、3位には「のんびり」「広い」などゆったりした空間を連想させるような理由が多く集まった。来園目的は散歩コースの一部という回答が多い結果であった。そのほかには着座を伴うであろう目的が挙がった。

項目別評価は各項目過半数を超えており、高めの評価である。特に、「開放感」「海の眺望」は高い割合を占めている。総合評価は「不満・やや不満」の回答者はおらず、「満足・やや満足」が90%近くを占めており、高めの評価であることがわかる。やってみたいことは比較的一人でゆっくりするような内容が目立つ。これらから、当公園は全体的に比較的満足度の高い公園であると言えるだろう。

表4. 着座者の公園の利用傾向

(1) 居住地		(5) 項目別評価		注
1位 西区	13件 17%	安全性	53件 65%	
2位 中区	8件 10%	利便性	47件 57%	
3位	南区	6件 7%	快適性	70件 85%
	神奈川区	6件 7%	緑の豊かさ	70件 85%
(2) 当公園の利用頻度		清潔感	53件 65%	
ほぼ毎日(週5~7)	8件 10%	開放感	75件 91%	
週1~4	8件 10%	海の眺望	73件 89%	
月1~3	25件 30%	(6) 当公園の総合評価		
2~5か月に1~4回	14件 17%	満足	21件 26%	
半年に1回以上	27件 33%	やや満足	51件 62%	
(3) 当公園の選定理由		普通	10件 12%	
1位 海が見える	19件 23%	やや不満・不満	0件 0%	
2位 習慣	9件 11%	(7) 公園でやってみたいこと		
他施設から近い	9件 11%	1位 一人でのんびり	22件 27%	
4位	のんびりできる	2位 ピクニック	18件 22%	
	人が少ない	3位 散歩	8件 10%	
	広い	4位 読書	7件 9%	
	会議・展示場から近い	4位 昼寝	7件 9%	
(4) 来園目的				
1位 散歩	24件 29%			
2位	休憩	18件 22%		
	飲食	18件 22%		
4位 暇つぶし	11件 13%			

注(5)の数値は「良い・やや良い・普通・やや不快・不快」の5段階中、「良い・やや良い」の数値を足し合わせたものとする。

#### 4.着座者のベンチ利用傾向

着座者のベンチの利用形態として、行為について着目する。観察件数は4日間で608件。行為が複数行われているものに関しては両行為をカウントすることとした。結果、下の表6の通り、最も多い行為は「休憩」で503件(83%)確認できた。次いで「雑談」218件(36%)、「飲食」132件(22%)が多く確認することができた。

##### 4-1.滞在時間と行為の関係

それぞれ「休憩」が一番多くなり、次いで多かったのが、滞在時間帯で見ると、0~30分未満で「雑談」、30分~60分未満で「雑談」「飲食」、1時間~2時間未満で「雑談」「飲食」「寝る」、2時間以上で「寝る」「読書」となった。比較的短時間で済ませられる様な行為は行為終了後すぐに席を立ち短時間滞在と繋がり、のんびりと過ごす行為が2時間以上の長時間滞中に繋がっていた。

表5.滞在時間別に見た利用行為の傾向

滞在時間 以上 未満	着座 件数	行為(上段:実数、下段:%)								
		飲食	寝る	雑談	休憩	読書	携帯	喫煙	他	
00:00~00:30	443	69 16%	20 5%	161 36%	362 82%	18 4%	18 4%	37 8%	28 6%	
00:30~1:00	103	44 43%	11 11%	37 36%	88 85%	16 16%	10 10%	18 17%	10 10%	
1:00~2:00	48	16 33%	15 31%	18 38%	43 90%	7 15%	7 15%	5 10%		
2:00~	14	3 21%	6 43%	2 14%	10 71%	5 36%	0 0%	1 7%	3 21%	
計	608	132 22%	52 9%	218 36%	503 83%	46 8%	35 6%	63 10%	46 8%	

着座件数は滞在時間ごとにカウントしており、一部ダブルカウントを含む構成比の母数は着座件数とする

##### 4-2.時間帯と行為の関係

「休憩」は全時間帯で半数以上を占める結果となった。「携帯」は早朝の9時代に多く、「寝る」「喫煙」が午前の比較的早い時間帯に多く確認することができた。9時代にカウントされている「寝る」行為は、40代以降の男性が多く、調査開始時間の午前9時前から開始されているケースが多く、残暑が残る9月の涼しい時間帯に行われているようであった。「飲食」は9時代では弁当を持参しての朝食、11時代や12時代は昼食をとっている姿が多く観察することができた。「雑談」は昼頃から多くなる傾向も見られた。午前には比較的多様な行為がみられ、午後になると「休憩」「雑談」などに行為が集中する傾向が見られた。

表6.時間帯別でみた利用行為

時間帯	着座 件数	行為(上段:実数、下段:%)								
		飲食	寝る	雑談	休憩	読書	携帯	喫煙	他	
9:00~	72	11 15%	16 22%	7 10%	40 56%	7 10%	8 11%	7 10%	3 4%	
10:00~	110	14 13%	13 12%	13 12%	63 57%	6 5%	6 5%	11 10%	9 8%	
11:00~	152	26 17%	10 7%	32 21%	74 49%	9 6%	2 1%	8 5%	8 5%	
12:00~	149	31 20%	9 6%	22 15%	67 45%	9 6%	3 2%	8 5%	8 5%	
13:00~	210	21 10%	14 7%	39 19%	105 50%	5 2%	2 1%	12 6%	7 3%	
14:00~	177	25 14%	11 6%	31 18%	81 46%	10 6%	5 3%	7 4%	8 5%	
15:00~	200	17 9%	9 5%	39 20%	111 56%	16 8%	5 3%	13 7%	6 3%	
16:00~	173	13 8%	6 3%	43 25%	92 53%	12 7%	12 5%	8 5%	8 5%	

着座件数は時間帯ごとにカウントしており、一部ダブルカウントを含む構成比の母数は着座件数とする

#### 4-3.アクセス性と行為の関係

入口からのアクセス性を考慮して分けたA~Fエリアに関して、そこで行われる行為の傾向について比較をおこなった。

どのエリアでも「休憩」は多く見られる行為である。アクセス性の高いエリアでは、「飲食・携帯・喫煙」の割合が高くなっている。逆に、最もアクセス性の高いAエリアでの「雑談」の割合は低めである。また、Aエリアよりはアクセス性が低くなるBエリアでの「喫煙」の割合も低めである。これは、Aエリアに喫煙所が設けてあるため、入口エリア内でも差が生じていると考えられる。一方、アクセス性の低いエリアでは「寝る・雑談・読書」の割合が高くなっている。また、どのエリアでも休憩の割合は高くなっているが、中でも落ち着いた雰囲気を持つBエリアDエリアはより割合が高くなっている。Fエリアはベンチ群内にあるベンチではないエリアなので、利用者が少なく他のエリアほど多様な行為が見られなかったと考えられる。

表7.アクセス性別でみた利用行為の傾向

エリア	着座 件数	行為(上段:実数、下段:%)								
		飲食	寝る	雑談	休憩	読書	携帯	喫煙	他	
A	115	35 30%	9 8%	19 17%	81 70%	7 6%	10 9%	29 25%	8 7%	
B	124	43 35%	9 7%	52 42%	111 90%	8 6%	13 10%	5 4%	8 6%	
C	117	15 13%	5 4%	48 41%	101 86%	4 3%	2 2%	10 9%	7 6%	
D	172	32 19%	21 12%	59 34%	153 89%	23 13%	12 7%	17 10%	20 12%	
E	103	17 17%	15 15%	41 40%	73 71%	6 6%	3 3%	7 7%	11 11%	
F	13	2 15%	0 0%	8 62%	10 77%	0 0%	0 0%	0 0%	2 15%	
計	644	144 22%	59 9%	227 35%	529 82%	48 7%	40 6%	68 11%	56 9%	

着座件数はベンチごとにカウントしており、一部ダブルカウントを含む構成比の母数は着座件数とする

##### 4-4.海の見え方と行為の関係

海の見え方を「正面、45度、90度以上、見えない」の4つに分けた。ただし、背もたれのないベンチは海のある東側を向いて座ることとして考える。海が正面に望める場所での着座件数が多く、やはり、海がよく見える場所の人気の高いと言える。

表8.海の見え方別でみた利用行為の傾向

角度	着座 件数	行為(上段:実数、下段:%)								
		飲食	寝る	雑談	休憩	読書	携帯	喫煙	他	
正面	369	95 26%	23 6%	127 34%	303 82%	19 5%	25 7%	44 12%	25 7%	
		11 18%	9 15%	25 40%	43 69%	5 8%	2 3%	2 3%	10 16%	
45度	62	18 16%	19 17%	41 36%	97 84%	13 11%	8 7%	12 10%	13 11%	
		20 21%	8 8%	34 36%	86 91%	11 12%	5 5%	10 11%	8 8%	

着座者はベンチごとにカウントしており、一部ダブルカウントを含む構成比の母数は着座件数とする

「休憩」はどの角度でも一番多く見られるが、45度のエリアは若干低めの割合であった。また、「雑談」はどの角度でも比較的多く見られる。海が正面に臨めるエリアでは「飲食・喫煙」の割合が高く、「読書」の割合は低くなっている。顔を傾ければ見えるエリアでは「寝る・雑談」の割合が高く、「読書」も高めの傾向にある。見えないエリアでは「休憩・読書」が多く、「飲食」も多めの傾向にある。

#### 4-5. 着座者の着座意識

「ベンチがある」が82%、「海が見える」が65%、「緑がある」が60%、「開放感がある」が54%で、着座の要素には、着座できる場所であることが第一の選定のポイントとなり、「海」という要素もまた、着座場所の選定に影響を与える要素であることがわかる。

エリア別にみると、「木陰がある」は入口エリアが水路横エリアの半数に成っていることがわかるが、これは調査を行っていくうえで、季節や天候の移り変わりが大きく関係していると考えられる。「開放感がある」「清潔感がある」は比較的閉鎖的な水路横エリアより、東側に障害物がなく海を臨むことができる入口エリアの割合の方が高めであった。「他施設との隣接性」に関しては、隣接性を重視している人は、入口エリアに集まる傾向にあることもわかる。「海が見える」は入口エリアに多い回答であった。

表9. 着座者の着座意識

選定理由	エリア		入口		計		
	実数	%	実数	%	実数	%	
緑がある	34	64%	15	52%	49	60%	
木陰がある	32	60%	9	31%	41	50%	
ベンチがある	46	87%	21	72%	67	82%	
街灯がある	1	2%	0	0%	1	1%	
トイレの場所が近い	5	9%	1	3%	6	7%	
飲食物を購入しやすい	5	9%	2	7%	7	9%	
風が心地よい	24	45%	8	28%	32	39%	
雰囲気が落ち着く	22	42%	17	59%	39	48%	
開放感がある	26	49%	18	62%	44	54%	
清潔感がある	7	13%	8	28%	15	18%	
海の眺望性	見える	30	57%	23	79%	53	65%
	見えない	0	0%	0	0%	0	0%
人の多さ	多い	0	0%	0	0%	0	0%
	少ない	15	28%	6	21%	21	26%
特定場所からの近接性	出入口	0	0%	4	14%	4	5%
	会議・展示場	0	0%	1	3%	1	1%
	他施設	0	0%	1	3%	1	1%
	会社	0	0%	0	0%	0	0%
	その他	0	0%	0	0%	0	0%
アンケート件数	53		29		82		

#### 5. まとめと考察

##### 5-1. まとめ

当公園の選定理由に「海が見えるから」という回答が多く、ベンチの選定理由にも「海が見える」が多く得られて事から、来園者にとって「海」は重要な要素であり、好んで海が見える空間を選んでいることがわかる。

しかし、着座者の滞在時間は15分未満の短期型が多く、必ずしも海を眺めつつゆっくりとくつろいでいるわけではない。人々の移り変わりは9時からお昼にかけて増え、13時代、15時代に多くなり、その後はあまり大きな変化はみられないことがわかった。

滞在時間と行為の関係としては、手軽に行うことのできる「飲食」「雑談」などの行為は短期滞在、ゆったりと行われる「寝る」「読書」などの行為は長期滞在につながるということがわかった。時間帯と行為の関係は午後より午前の方が多様な行為が見られ、午後に近づくにつれ、「休憩」や「雑談」など行為が中心となる傾向にある。アクセス性と行為の関係はアクセス性の高いエリアでは「飲食」・「携帯」・「喫煙」など手軽な行為が多く、アクセス性の低い静かな雰囲気の

エリアでは「寝る」「読書」など静けさが好まれる行為が多い結果となった。また、海が見えやすいエリアでは「飲食」「喫煙」など手軽な行為が多く、海を見ながら行われる傾向があるようであった。一方海の見えにくいエリアでは「寝る」「読書」などくつろぐ行為が多くなる結果となった。

##### 5-2. 考察

本調査地の利用の特徴は、海を求めて来園し、「休憩」という利用が多く、着座場所も海が正面に見えるベンチの人气が高い。利用者は、海の眺望とくつろぎや憩いを求めていると言える。利便性が高いことから、短時間滞りも多く、海を眺めて気晴らしをしつつ、飲食や喫煙をするという行為も多い。その一方で、海を眺めつつ休憩や雑談を楽しむ長時間滞りも多く確認された。

海が見える場所での行為は、「飲食」「喫煙」が他と比較すると多いが、「休憩」「雑談」も多く、「休憩」や「雑談」と「飲食」「喫煙」をしつつ海を楽しむという利用がなされている。なお、「喫煙」は、海の眺望性との関係が確認された行為ではあるが、本調査地では海の見えやすい場所とアクセス性の高い場所が一致していたために、本来はアクセス性の高さとの関係性が高い行為と考えている。「寝る」はアクセス性の低いエリアで多かったが、本研究では触れていないが、これには木陰の要素など他の要素も関係してくるのではないだろうか。

今後の課題としては、本調査地において、アクセス性の高さとの関係が一致していたため、調査結果においてアクセス性が高いから行われた行為であるのか、海が見えやすいから行われた行為であるのかは判断し難い。今後、このようなものを判断できる場所を選定し、調査を行う必要がある。

##### 謝辞

本研究をすすめるにあたり、ご協力いただいた横浜国際平和会議場の関係者の皆様、アンケートにご協力くださった地域の皆様に深く感謝申し上げます。

##### 参考文献

- 1) 荻野さとみ、揚村固：ウォーターフロント空間活用に関する基礎調査、日本建築学会計画系論文集、鹿児島県立短期大学紀要、第57号、1-6、2006年12月
- 2) 細川祐介、横内憲久、岡田智秀、大越正之：ウォーターフロントにおける土地区画整理事業のあり方に関する研究、日本建築学会講演要録概集、10009、2003年9月
- 3) 森一彦、西脇智子：池のある公園におけるベンチの使われ方に関する研究、日本建築学会計画系論文集、第585号、71-77、2004年11月
- 4) 大島秀明、天野克也、谷口汎那：公共美術館における利用特性からみた座りスペースと座り行為に関する研究、日本建築学会計画系論文集
- 5) みなとみらい21マスタープラン
- 6) 横浜環境創造局ホームページ  
<http://www.city.yokohama.jp/me/kankyoyu/>
- 7) 横浜港大さん橋国際旅客ターミナル  
<http://www.osanbashi.com/>